

市民フォーラム(平成28年10月23日開催)報告

<実施概要>

市民フォーラム

未来の憩いの広場、市民ホールを考えよう

～新しい複合施設を目指して～ 入場無料

平成 28年 10月 23日 日 14:00 (開場 13:30)

市民会館 小ホール (宮小牧市旭町3丁目2番2号)

■ プログラム

第1部 講演 (14:00～15:20)	第2部 パネルディスカッション (15:30～16:40)
<p>公共施設の役割</p> <p>講師 衛 紀生氏 (可児市文化創造センターala 館長兼劇場総監督)</p> <p>コーディネーター 森 傑氏 (可児市議会議員)</p>	<p>複合施設の市民ホールが目指すもの</p> <p>パネリスト 衛 紀生氏 (可児市文化創造センターala 館長兼劇場総監督)</p> <p>岩倉 博文氏 (宮小牧市長)</p> <p>黒岩 真美氏 (市民ホールワーキンググループ 委員長)</p> <p>山口 勝次氏 (市民ホールワーキンググループ 部会長)</p> <p>コーディネーター 森 傑氏 (可児市議会議員)</p>

■ 参加申込み

申し込みは可児市文化創造センターala TEL: 0144-32-6071 FAX: 0144-32-4322 E-mail: hsi@karijichiyumokumaihalo.kari.jp

申込み締切: 10月17日

■ お問い合わせ・申込み先

可児市文化創造センターala TEL: 0144-32-6071 FAX: 0144-32-4322 E-mail: hsi@karijichiyumokumaihalo.kari.jp



可児市文化創造センターala

全ての市民に開かれた「公共劇場」を目指し、社会福祉政策と連携した取組や積極的なアウトリーチ活動を通して、社会包摂・地域貢献の拠点としての劇場を实践する。

可児市人口 : 100,664人(H27.4.1)

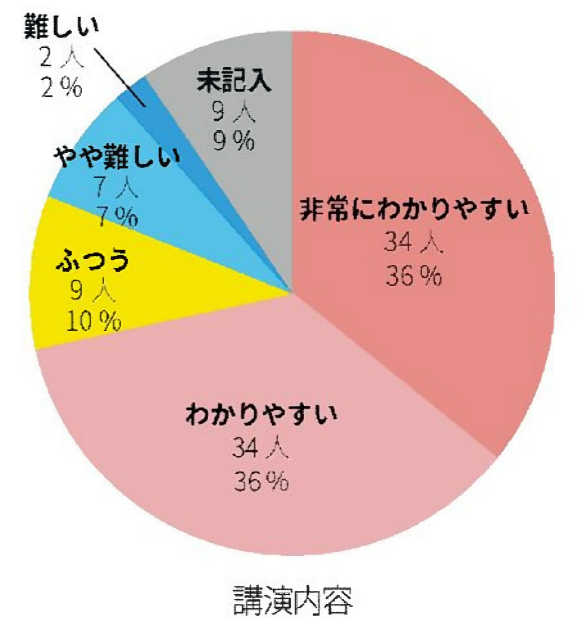
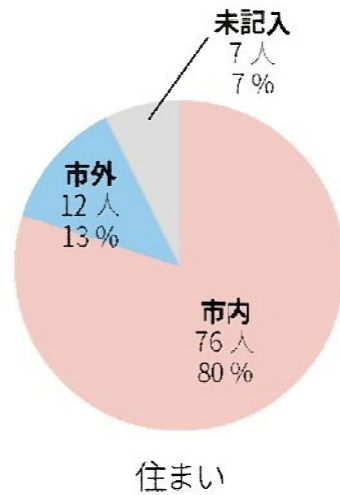
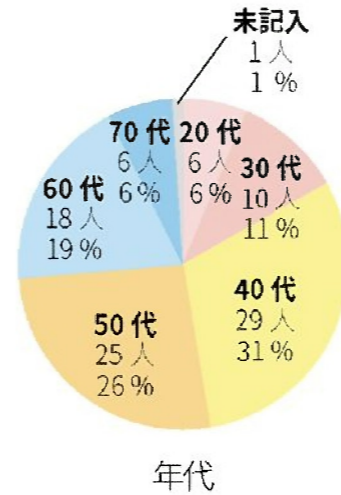
年間来館者数 : 321,938人(H27年度)



<参加者データ>

参加者数: 約200名

アンケート回答者数: 95名



自由記述抜粋 (市民フォーラムで印象に残っていること)

衛紀生先生の講演を再度拝聴したい (50代男性)。alaを知れて良かった。ぜひ苦小牧でも活かしてほしい (30代女性)。公共施設の本質が変ったような気がしています (50代男性)。衛館長の話は興味をひかれるものが多くあったが、一面性のみを伝えられても困る。積み残している手の回らない物についてもお話いただけたら良かった (40代男性)。今日の参加者だけで聞くにはもったいない もっとたくさんの人に聞いてもらいたかった 目からウロコです 見方を変えます (70代女性)。

<講演のポイント>

- 税金で設置する公共劇場は、文化芸術と社会課題を対応させた取組を行う必要がある**
alaの大きな特徴は、劇場を社会包摂拠点として捉え、文化芸術活動を通じて地域の人々をケアしている点である。例えば、福祉連合会と連携し、子連れの家族を集めて親子同士や参加者同士の絆を深める演劇ワークショップなどを行っている。税金で設置する公共施設は、単に主催事業を実施していれば良いわけではなく、劇場が担うべき社会的責任を果たさなければならない。
- 常識を打ち破ることで、文化芸術から縁遠い市民もリピーターへと転換できる**
市民にとって劇場は何ができるかを常に考え、その実践のためには既存の常識に縛られてはならない。例えば、alaではチケット割引においても独自の改革を行っており、DAN-DAN チケットという取組では当日券を半額にするサービスを行っている。当日であれば悪い席に当たる確率も高くなるので、観客の合理性を考えれば自然な考えである。既存の常識を打ち破ることで、文化芸術から縁遠い市民も劇場のリピーターへと転換できる。
- 市民やまちにとっての価値を迫及した取組を徹底的に考え、実践することが重要である**
「あそこは特別だから(自分たちの施設ではできない)」と言われることもある。しかし、alaが特別なことをしているわけではなく、徹底して市民やまちにとっての価値を追求した取組を行っているだけである。市民・まちにとって公共劇場が果たすべき役割を真摯に考え、着実に取組へとつなげる姿勢が重要である。

<当日の様子>



第1部 衛氏による講演



第2部 パネルディスカッション